# 津波高16・5メートル示す標柱

## 志津川に設置 被害の記憶、次世代へ

東日本大震災の津波被害の記憶を伝えるため、南三陸町志津川の上の山緑地公園入り口に、志津川地区の平均津波高16・5メートルを示す標柱が設置された。

同町と、町から復興整備事業を受託したUR都市機構、工事業者が実施した。津波で被災した志津川地区では、大規模な土地区画整理事業が進められ、地盤が平均で約10メートルかさ上げされた。震災前と地形が大きく変わる中、多くの人の目に触れる場所に津波の高さを示すことで、防災への意識を高めてもらおうと企画した。

志津川地区に設置された震災の津波高を示す標柱＝南三陸町で

設置作業には志津川地区まちづくり協議会のメンバーも参加。高さ2メートルの標柱に、海抜16・5メートルの津波高を絵柄で表す「津波サイン」や、地区の復興事業概要を記したパネルを取り付けた。

標柱は高台の中央団地造成工事で伐採したスギを使った。材料を木材にしたのは、朽ちた後、次の世代が作り直して震災を振り返り、後世まで語り継げるようにと考えたからだという。町などは3月中に、地区内の小学校や公園の近くなどにあと3カ所設置する。

同協議会の及川渉会長(37)は「人の記憶は薄れてしまうもの。震災を忘れずに次の世代へ伝えていけるように、標柱を活用したい」と話した。【新井敦】

# 震災遺構保存 阪神に学べ

## 南三陸・ホテル観洋で写真展

## 「高野会館残す」関係者決意新た

1995年に起きた阪神大震災の被災地で、災害の脅威や教訓を伝える「震災遺構」をどう保存してきたかを紹介する写真展が、南三陸町のホテル観洋ロビーで開かれている。東日本大震災の津波に襲われた「高野会館」(同ホテル所有)の保存活動も紹介している。4月30日まで。

阪神大震災の被災地では、震災発生1カ月後に市民団体「リメンバー神戸プロジェクト」が発足。震災の記憶を伝えるために被災建物などの保存を行政に訴えたが、その多くが解体された。一方、東北でも震災遺構を巡る議論は続いている。

写真展では、震災の大火に耐えた神戸市長田区の「神戸の壁」を保存するに至った経緯や、震源となった野島断層が保存されている淡路島の北淡震災記念公園(兵庫県淡路市小倉)の取り組みなどを紹介している。

遺構の重要性について語る阿部隆二郎副社長(右)と三原泰治代表＝南三陸町のホテル観洋で

2月22日にあったオープニングイベントでは、同プロジェクトの三原泰治代表＝神戸市＝が「遺構がなければ災害の真実を伝えられない。阪神の教訓を東日本大震災の被災地で生かしてほしい」と訴えた。同ホテルの阿部隆二郎副社長は「被災地同士でつながり、高野会館を残さなければならないという意志をさらに強めた」と話した。

写真展は午前8時～午後8時。入場無料。問い合わせはホテル観洋(0226・46・2446)まで。【本橋敦子】

宮城
MIYAGI
sendai@mainichi.co.jp

仙台支局
〒980-0012
仙台市青葉区錦町1の5の1
022(222)5972 FAX022(222)6048
石巻通信部
022(222)5972 FAX0225(23)8581
塩釜駐在
022(366)7779 FAX022(367)7713
大崎通信部
0229(22)0316 FAX0229(22)3342
気仙沼通信部
022(222)5972 FAX0226(23)3031

広告は 毎日広告社仙台 022(265)4111
折込は ケンオリ 仙台営業所 022(217)6766
購読は 0120-468-012

仙台中央 222・9381 仙台西 222・9381
長町 263・2541 南小泉 263・2541
塩釜 362・1474 石巻 95・9888
古川 22・0604 原の町 256・3636
多賀城 362・1474 気仙沼 22・0202
岩沼 22・3538 白石 26・2553

ウチの場合は
森下裕美
(4769)